

第2回

精神科医のための

TMS 治療実践 セミナー

～今だからこそ問う！ TMS 治療のあるべき姿～

開催日 2023. 5. 26 金

アーカイブ配信 5. 27 - 6. 2 (要事前登録)

時間 19:00 ~ 20:30

開催形式 ZOOM ウェビナー形式

新型コロナウイルス感染が広がる中、コロナ後遺症（※）が社会問題となっております。実臨床においても、新型コロナウイルスへの感染が契機となり、疲労感や思考障害が出現し、それらの症状が持続するケースを数多く経験します。海外の研究では、新型コロナウイルス感染症患者における脳構造の変化が報告されているものの、コロナ後遺症の発症機序はまだ十分解明されておらず、残念ながらその治療法もまだ確立していません。そのような背景の中、昨年我々は東京横浜 TMS クリニックと新宿・代々木こころのラボクリニックとの共同で、コロナ後遺症で苦しんでいる外来患者の中で主にうつ症状を示す方を対象に TMS 療法を無償で実施し、その有効性に関わるデータを TMS レジストリ研究の枠組みでレトロスペクティブに解析しました。同レジストリ研究からは、「ブレインフォグ」と呼ばれる認知機能低下に対する TMS 療法が非常に有望な治療手段になりうる可能性が示唆されました。第2回 精神科医のための TMS 治療実践セミナーの前半では、この春に Asian Journal of Psychiatry 誌に報告した「Real world research on transcranial magnetic stimulation treatment strategies for neuropsychiatric symptoms with long-COVID in Japan」の内容をご紹介します。セミナーの後半では、FDA で認可されている強迫性障害に対する TMS 療法について、昨年秋に Journal of Clinical Medicine 誌に報告した「A Case Series of Deep Transcranial Magnetic Stimulation Treatment for Patients with Obsessive-Compulsive Disorder in the Tokyo Metropolitan Area」の内容を踏まえた上で、実臨床での活用についてご紹介する予定です。

最後に、今後さらにコロナ後遺症に対する TMS 療法のエビデンスレベルを高めていくために、コロナ後遺症に対する TMS 療法の確立に向けてクラウドファンディングで篤志を募らせていただきたく、その詳細をご説明させていただきたいと考えております。

※コロナ後遺症は、急性呼吸器症状が消失した後、慢性疲労、筋肉痛、関節痛、しびれなどの身体症状や、記憶障害、集中力低下、不眠、頭痛、抑うつ気分などの神経精神症状が3ヶ月以上持続する状態と定義される。これまでのコロナ後遺症研究では、重症化しなかったコロナ感染症患者の約7割において、感染2か月後も嗜眠傾向・呼吸困難・脱力感が持続し、コロナ感染症で入院した重症患者の約3割において、記憶障害、うつ症状、不安症状が見られ、退院3ヶ月後もこれらの障害が持続すると報告されている。さらに、コロナ感染症で入院した重症患者の約8割が退院6か月後においても、疲労感（63%）、睡眠障害（26%）、脱毛症（22%）、嗅覚障害（11%）をはじめとした残存症状を認めると言われている。

講師

■ 野田 賀大

(慶應義塾大学医学精神・神経科学教室特任准教授)

■ 大澤 亮太

(医療法人社団こころみ 理事長)

プログラム

プログラム 1

コロナ後遺症に対する TMS 療法の可能性

野田 賀大 先生

プログラム 2

強迫性障害に対する TMS 療法の有用性

大澤 亮太 先生

プログラム 3

コロナ後遺症に立ち向かうための TMS 療法開発に向けたクラウドファンディングのお願い

野田 賀大 先生

申し込み

下記 URL、または QR コードよりお申込みください。

お申込み時にご入力頂いた、メールアドレスへ視聴用 URL が返信されます。

<https://www.irc-web.co.jp/seminar/20230526>



問合せ

セミナーに関するお問い合わせは、下記運営事務局までお願い致します。

第2回精神科医のための TMS 治療実践セミナー
運営事務局

✉ seminar.info@irc-web.co.jp

☎ 03-5974-0231 (平日 9:30-17:30)

〒114-0016 東京都北区上中里 1-37-15